

校長室だより

第3号

柏原市立堅下北中学校
校長 石田 智
令和5年6月1日（木）発行

○3年生修学旅行

5月14日（日）～16日（火）にかけて、3年生は長崎方面に修学旅行に行きました。天候にも恵まれ、参加者全員が元気に3日間の行程を終えることができました。

3年生は修学旅行に向けて、時間をかけて平和学習を行ってきており、初日の行程はその集大成でもありました。まず長崎に到着と同時に被爆の語り部である羽田麗子先生（元中学校の先生です）からの体験談を聞き取り、原爆資料館を見学して、爆心地公園にて平和セレモニーを行いました。その後は平和フィールドワークとして、班ごとに被爆の史跡を巡りました。学校で事前学習してきたことを、現実起こった出来事として実感できる貴重な経験だったと思います。羽田先生へのお礼の手紙を全員分読みましたが、「二度と戦争を起こさないことは僕たちにかかっている」「被爆の体験を聞いて何とも思わない人はいないので、伝えることが大事だと思った」「戦争を起こさないためには、思いやりの心と優しさが大切だと思う」等の言葉が見られ、将来の平和の担い手としての活躍が大いに期待できると感じました。（※ 今朝、羽田先生よりお礼の手紙を読んで感動したとのお電話がありました。）

夜に行われたレクリエーション大会では、みんなが明るく生き生きとした姿を見せてくれ、学年全体のパワーを肌で感じるできました。

2日目の前半は班ごとに長崎市内のフィールドワークに出かけました。広い範囲を慣れない市電を使っただけ移動は難しかったと思いますが、全員時間どおりに集合場所に集まることができました。その後はハウステンボスまで移動し、3日目の午前中までは有志グループで施設内のアトラクション等を満喫しました。本当に楽しそうに笑顔で過ごしている生徒たちの姿が印象的でした。

「温故知新」のスローガンどおり、人類の過ちとも言える過去の戦争や原爆の悲劇を教訓に、平和に生きる決意を固めたことに加え、旅行をとおして旧知の友だけでなく、新しい仲間との絆も深まったように思います。2学期には北中伝統のソーランがあります。この修学旅行の経験を生かし、素晴らしい発表になることを期待しています。



○1年生宿泊学習

3年生の修学旅行から2週間後の5月28日（日）と29日（月）、1年生は兵庫県の神鍋高原に宿泊学習に行ってきました。残念ながら天候が悪く、急な変更などもありましたが、大変充実した2日間を過ごしました。

初日は、まず神鍋高原周辺のフィールドワークを行いました。神鍋山山頂を含め結構な距離を移動するというしんどい行程なのですが、天候が良くなかったことが幸いし、涼しい環境の中で実施できました。（他の学校では体調不良者が続出したようです）その後、更に雲行きが怪しくなったので、急遽学級アピールとレクリエーションを先に行うことにしました。学級アピールは正に3クラス3様で、それぞれの個性が感じられる素敵なものでしたし、途中で見せてくれた特技披露にも感心させられました。夕食は宿舍ごとにバーベキューをしました。全国旅行支援のおかげで高級な但馬牛を堪能することができました。

2日目は朝食後、まずうどん作りにチャレンジしました。小麦粉を練ってうどんを打つ行程を班ごとに体験しました。同じ材料なのに細い麺や太い麺、柔らかい麺や硬い麺など班の個性が出ているのが面白かったです。（味はどれも美味でした）その後は雨天のためマス掴みの代わりに餅つきを行いました。杵は想像以上に重く、振り上げるのに苦労している様子も見られましたが、つきたてのお餅の味は格別だったようです。昼食には自分たちが打ったうどんを食べ、閉村式をして神鍋を後にしました。

目標の「ケガなく、全員がHappyになれる宿泊学習」のとおり、全員が大きな怪我をすることなく終わることができました。そして、2日間寝食を共にすることにより、学校では見られない仲間の姿に触れ、学年全体の仲が一気に深まったように感じました。ただこの目標が本当に達成されたかどうかは今後の学校生活にかかっています。誰一人取り残されることなく、学年全員が心からの笑顔でHappyに過ごせる日常ができるかどうか。そうなることを期待しています。

